

北海道電力の電気料金再値上げ認可 申請に関する質問事項②(個別)

質問1:料金メニューごとの契約件数とその推移

・料金メニューごとの契約件数とその推移を示して下さい。

具体的には、以下の表の空欄を記入して、必要に応じて、分かり易く補足説明を加えて下さい。
以下は代表的メニューだけなので、その他の料金メニューも加えて下さい。

	平成26年値 上げ前(○年 ○月時点)	平成26年7月 時点	増減	平成26年度 見込み	平成27年度 見込み
従量電灯B					
従量電灯C					
時間帯電灯 (ドリーム8)					
3時間帯別電灯 (eタイム3)					

質問・要望の意図

- ・前回値上げによって、消費者がどの程度、料金プランの変更を行ったか？
- ・今回の値上げによって、特に深刻な影響を受ける消費者は何件程度存在するのか？存在する見込みなのか？

オール電化住宅の内訳と影響について

第16回家庭用電気料金の値上げ認可申請に関する調査会

- 【資料1－2】補足資料で「灯油暖房・灯油給湯のお客さまとの年間お支払い額の比較」について
- 北海道におけるオール電化住宅は約20.7万戸となっていますが、これを見ると、エコキュートの人は今回の値上げでも比較的影響が少ないといえる。
- 「電気温水器＋蓄熱暖房器」
- 「電気温水器＋電気ボイラー」
- 「エコキュート＋ヒートポンプ暖房システム」
- はそれぞれ何万戸ですか。それらの種別により値上げ幅に工夫をする必要はありませんか。

質問2:料金メニューの値上げ影響の比較

・料金メニューの値上げ影響の説明として、従量電灯B等は月間支払額が示されているのに対して、オール電化向けメニューでは年間支払額が示されている。従量電灯B等においても、値上げ前後の年間支払額とその増加額(率)を示して下さい。

質問・要望の意図

従量電灯B等においても季節ごとの差が大きいいため、年間支払額としての値上げ影響を把握したい。

仮に、月間使用量が年間使用量の単純平均であるならば、増加率はまったく同じとなるはずであるが、オール電化向けメニューとの比較容易性のため、従量電灯B等においても年間総額を示してほしい。

	契約電力等	ご使用量 (月間)	値上げ後のお支払額 (月間)	値上げ前のお支払額 (月間)	値上げ額 (月間)	値上げ率
従量電灯B	30A	260kWh	8,302円	7,233円	1,069円	14.78%
従量電灯C	13kVA	1,300kWh	47,274円	41,931円	5,343円	12.74%
低圧電力	8kW	650kWh	21,634円	18,962円	2,672円	14.09%

給湯:電気温水器(4.4kW)、暖房:蓄熱式電気暖房器(20.5kW)の場合

	契約容量	ご使用量 (年間)	値上げ後のお支払額 (年間)	値上げ前のお支払額 (年間)	値上げ額 (年間)	値上げ率
時間帯別電灯 (ドリーム8)	8kVA	23,001kWh	425,600円	331,067円	94,533円	28.55%

質問3：三段階料金の段階別値上げの妥当性

今回の値上げ

従量電灯B	現行単価 (円)	段階ごとの 比率	値上げ額 (円)	申請単価 (円)	段階ごとの 比率	値上げ率
第1段階	19.88	76.3%	4.11	23.99	79.5%	20.67%
第2段階	26.06	100%	4.11	30.17	100%	15.77%
第3段階	29.46	113.0%	4.11	33.57	111.3%	13.95%

前回(平成25年)の値上げ

従量電灯B	旧単価 (円)	段階ごとの 比率	値上げ額 (円)	平成25年値 上げ単価	段階ごとの 比率	値上げ率
第1段階	18.45	77.3%	0.88	19.33	76.3%	4.77%
第2段階	23.86	100%	1.48	25.34	100%	6.20%
第3段階	25.55	107.1%	3.09	28.64	113.0%	12.09%

- ・今回の値上げ申請では、一律に4.11円の値上げとなっているため、第1段階ほど値上げ率が大きくなっている。(第1段階は、オール電化向けの「3時間帯別電灯eタイム3」(値上げ率17.17%)を上回る値上げ率である)。節電努力を行っている電力少量消費者の値上げ率が大きいことはその努力を裏切る行為ともいえ、低所得層への影響も大きい。
- ・同時に、第1段階と第3段階の単価差が縮小する申請となっている。段階ごとの比率は少なくとも前回平成25年値上げの際の比率を維持すべきである。

北海道民に説明されるべき点

①泊原発電維持費のための値上げではないかとの住民の懸念が高い中、原発稼働時期により、向こう3年間の収支見込みをより厳密に出してほしい。全く再稼働しないなかで経営効率により、どこまで持ちこたえられるかの説明もすべき。(そうでないと、また再値上げ申請のおそれがあり、料金規制や査定は意味がない)。

②オール電化住宅を推進しておきながら、北電の都合による値上げは許されないとの声に対して、どうすれば値上げの影響を少なくできるか答えてほしい。

③オール電化住宅を薪ストーブに変えようとしている道民がいるが、ストーブに助成金をだす町が、煙突をつけたり、建物自体の設備に100万円以上かかることについて、どのように考えているのか。(エネルギー供給のスイッチングが進んでも企業として守られていることへの不満を理解すべき)。

⑤風力発電や太陽光パネルで発電した電気の買い取りも、送電線の整備をしていないので、北電の本気度が疑われるとの不信感が強い。財務状態が悪化していても、送電網を整備するなどして、企業として地域や住民への貢献がほしい。

5 今回のテーマではないとされているが、社員の給料は高すぎるという意見についてどうこたえるか。